

かほく市上下水道料金等検討委員会委員会（第2回）

議 事 概 要

日 時：令和7年7月2日（水） 13時30分～14時45分

場 所：かほく市役所本庁舎西フロア 302 会議室

出席者：

＜委 員＞ 委員10名 （うち出席者9名）

＜事務局＞

庭田 一彦 （かほく市 産業建設部 部長）

猪村 邦顕 （かほく市 上下水道課 課長）

多田 努 （かほく市 上下水道課 課参事）

北川 和美 （かほく市 上下水道課 課長補佐）

奥谷 俊彦 （かほく市 上下水道課 主査）

寺崎 真斗 （かほく市 上下水道課 主査）

次第：

1. 開会

2. 議題

（1）料金決定の原則について

（2）料金改正案と財政への影響について

（3）料金改定案について

3. その他

資料：

資料1：第2回かほく市上下水道料金等検討委員会資料

議事概要：

1. 開会

事務局より会議の開催が報告された。

2. 料金改定案について

資料1に基づき、料金決定の基本原則、料金改定案と財政への影響について事務局より説明が行われた。

【質疑応答】

Q. 前提の確認ですが、社会資本整備総合交付金等の交付にあたっての要件ということで、説明書きに「以下のいずれかに該当する場合、汚水処理に関する事業について重点配分の対象としない」とありますが、かほく市の場合は、供用開始後30年を経過し、その他

の要件も満たしていないように見えますが、かほく市は重点配分の対象にならないと考えていいですか。

A. かほく市の現状は、「直近の使用料改定年度」の要件以外は、未達となっております。ですが、4つの要件のうち、1つでも達成していれば、重点配分の対象となります。この「直近の使用料改定年度」は、令和8年度には、要件となる15年以上を超えるため、未達になってしまい、すべての要件で未達になるという状況になります。現在は要件を1つでも達成すれば重点配分の対象となります。今回の提案した3つの案は、この重点配分の要件を達成することができます。今回の料金改定では、重点配分の要件の達成について検討するとともに、使用者の負担についても検討していただきたいと思います。

Q. 要件を満たすためには、今回は最低限改正をしなければいけない、少なくとも経費回収率80%以上にすることが事務局の意向であるということによろしいですか。また、県内の市町は、交付要件に対してどのような状況でしょうか。分かる範囲で教えてください。

A. 県内の市町では、経費回収率100%や使用料単価150円/m³を達成している市町もありますし、経費回収率80%の市町もあります。

Q. かほく市が現在もらっている重点配分はどれくらいの額ですか。

A. 昨年度実績では、約1億4千万円、今年度は約6千万円の事業費に対して交付を受けています。

Q. 近隣の津幡町、内灘町は、直近でどのような改正を行いましたか。

A. 津幡町は、平成10年4月、内灘町は平成20年4月に改正をしており、具体的な数字は把握できていません。

Q. 料金改定案について、改正案①の改正率約50%、改正案②の改正率約30%というのは、私的には駄目だと思います。近年改正を行った野々市市や中能登町のように改定率20%程度が妥当だと思います。経費回収率100%、使用料単価150円/m³については、とりあえず経費回収率80%を達成して、段階を踏んで使用料単価150円/m³、経費回収率100%と様子を見ながら考えていってはどうかと思います。

A. ご意見ありがとうございます。資料にはありませんが、日本全国の事例を見ますと、料金改正を行った267の自治体のうち、改正率が多いのは16%から20%だそうです。次に6%から10%となっているようです。

Q. かほく市からの繰入金はいくらぐらい貰っていますか。基本的には、値上げをしないわけにはいけない。経費回収率80%、上げ幅20%くらいがちょうどいいと思います。定期的に、5年程度で経営状況を検討して、次に値上げをする時期が来ることを考えて、調整してやって欲しいです。

A. 市からの繰入金は基準内の額が5億5千万円ほど、基準外で2億円ほどもらっています。

Q. 前回の料金改定では、経費回収率を考慮して算定したのか、改定率を決めて算定した

のかわかりませんが、いままで毎年、一般財源からの繰入金がないと経営が厳しかったということですか。

A. 今まで、毎年単年度収支は赤字でした。繰入金のうち、約 6 割程度が基準内繰入金でそれ以外は基準外繰入金となっています。毎年、基準外繰入金をもらっています。現状として、企業債などの返済も徐々に減っているので、経営的には改善され、額も少なくなってきました。しかし、使用料で経費をすべて賄えていないので、経費回収率 100%を目指していきたいと考えています。

Q. 市の施策の方向性も関連してくると思っています。例えば、経費回収率 100%にすることで、市からの基準外繰入金が不要となり、そのお金を市の事業で使うことができ、より良い事業ができるなら下水道使用料を上げる。他方で、市民の負担を考慮して、市が基準外繰入金を下水道事業に入れることによって、市民の負担を軽減することができ、また、上下水道料金が安いことを PR して、移住者や若者の流入を増やすことを目指すなら使用料をできるだけ安くすることがいいと思います。かほく市としての方向性も重要だと思います。私は、できるだけ市民が負担することがいいと思います。

A. 下水道事業としては、公営企業という立場で考えると経費回収率 100%はお願いしたいところです。一方で、市として移住定住促進を進め、人口増加を目指すという立場では、公共料金が安いということは、かほく市のインセンティブとしては大きいかなと思っています。一昨年、能登半島地震で相当の方が被害を受け、復興を進める時期にあり、また、物価高騰等の社会情勢の変化の中、急激な公共料金の値上げは、相当のインパクトがあると考えています。

施設の長寿命化や統廃合事業に係る社会資本整備総合交付金の重点配分は、1 億円ほど交付を受けています。この交付金がもらえなくなるということは、市からの繰入金を増やす、施設の更新を先送りするということになります。そうすると、全国で発生している道路陥没などの事故等のように、市民の皆さんにご迷惑をおかけするとともに、復旧する費用も増えることになります。将来的には経費回収率 100%を目指しながらも、市民の皆様の負担を抑えながら、使用料の引き上げを行いたいと考えております。

【各委員からのご意見】

委員長

あくまで経費回収率 100%は、最終目標であり、今回の改定でそこまでの値上げをすることを考えてはいないということです。いろいろ意見があるようですが、下水道使用料の価格改定を行う必要性については、委員皆さんのご理解はいただいていると思います。

本委員会では、事務局から示された 3 つの案についてどうするか具体的に検討すべきだと考えています。市民の皆さんにいきなり大きな負担をかけられないとの思いも踏まえて、皆さんのご意見をお聞かせください。

A 委員

かほく市にはいろいろな魅力はあると思いますが、かほく市に住みたい若い方々は、安くて住みやすいという意見を聞いたことがある。もちろん、上下水道料金もその要素だと思います。下水道事業として、経費回収率が 70%台というところで、改善が必要なのは理解できるが、若者にアピールできるまちづくりを考えたときには、安く抑えて段階的に値上げを検討できればいいと思います。

B 委員

現状、経費の 70%しか使用料をもらえていないのであれば、80%まで引き上げることは妥当かと思うが、急に 100%まで引き上げるのはとんでもないこと。順次、値上げをすることを検討することとして、今回は 80%までの回収率を目指して、少額の値上げで抑えればいいと思う。

C 委員

みなさんと同意見です。経費回収率 80%程度なら出してもらえないのではないかと思います。

D 委員

安ければ安いほうがいいとは思いますが、5 年後に経営状況を検討した上で、段階的に何年か後に、計画的に上げていければいいと思います。

E 委員

一番安い案がいいと思う。

F 委員

今月から 2 千品目を超える食料品が値上げになる。おそらく米の価格も上がる中で、今回の改定では、下水道使用料は少し堪えたほうがいいと思う。

G 委員

経費回収率 80%の案でいいとは思いますが、低所得者等に対して基本料金を免除するなどの配慮を考えてほしい。

H 委員

5 年後、定期的に検討、改定の可能性があるならば、今回は経費回収率 80%でいいと思う。

委員長

委員皆様のご意見は、おおむね改正案の 3 番、経費回収率 80%に賛成するという意見が多かったと受け止められます。事務局は、意見を取りまとめて市長への答申案を作成してください。

事務局

答申のまとめについて確認をさせていただきます。公営企業として、経費回収率 100%の使用料は、将来目指すべきであるが、急激な使用料の値上げについて激変緩和や現在の社会情勢を鑑みて経費回収率 80%が妥当である。今後、料金等検討委員会で定期的な

経営状況を検証すること。といった内容でよろしいでしょうか。

委員長

この件については、皆さん理解していただいたということでよろしいですね。

事務局

ありがとうございました。委員長が言われました通り、改正案③でご了承いただいたということで、事務局の方で答申案を作成します。今、確認させていただいた通り、原則として最終的には経費回収率 100%ということを含め、改正案③を答申としてまとめさせていただきます。

F 委員

最後に一言。この委員会に呼んでいただくまで、この水道事業そのものの実態についてほとんど知らなかった。驚いたのは、下水道事業はこんなに赤字で、市にお世話になっていると思っていなかった。だから、もっと市民にそれを伝えた方がいいと思います。こういう実情を知らないで、多分数百円上がると思いますが、実態は、本当はここまで上げなきゃいけない。しかし、諸般の事情で、この程度に抑えた。という感覚を皆さんに持っていただいた方が、素直に受けとってもらえると思います。他の委員さんがおっしゃったように、いろんな個別の事情を踏まえて、減免措置についても検討いただけるとありがたいなと思います。

事務局

ありがとうございました。市民の皆様には広報誌やホームページ等で、広く料金改定についての必要性を、皆さんに知っていただいた上で、進めていきたいと考えております。また、水道料金の基本料金の減免等についても貴重なご意見として承ります。

閉会